

福島 (飯舘村) の 過去と未来

2025年 8月 飯舘A班

高橋優斗 八木智幹 岡本呼春

杉本陽向 黒田柊斗 眞鍋れあな

本発表について

1. 本研修で達成したいこと
2. 放射能濃度の測定
3. 飯舘村が抱える問題と解決策
4. 未来の飯舘村が存続していくために

本発表について

1. 本研修で達成したいこと
2. 放射能濃度の測定
3. 飯舘村が抱える問題と解決策
4. 未来の飯舘村が存続していくために

浜通り研修で達成したいこと (コンセプト)

学ぶ

放射能についての正しい知識を身につけ
試料採取や放射能測定にかかわるスキル
を習得する

行動する

積極的に現地の人に話を伺い
班員ともコミュニケーションをとる

考える

福島(飯舘)の現状を直視し
抱えている課題や解決策について
議論を深める

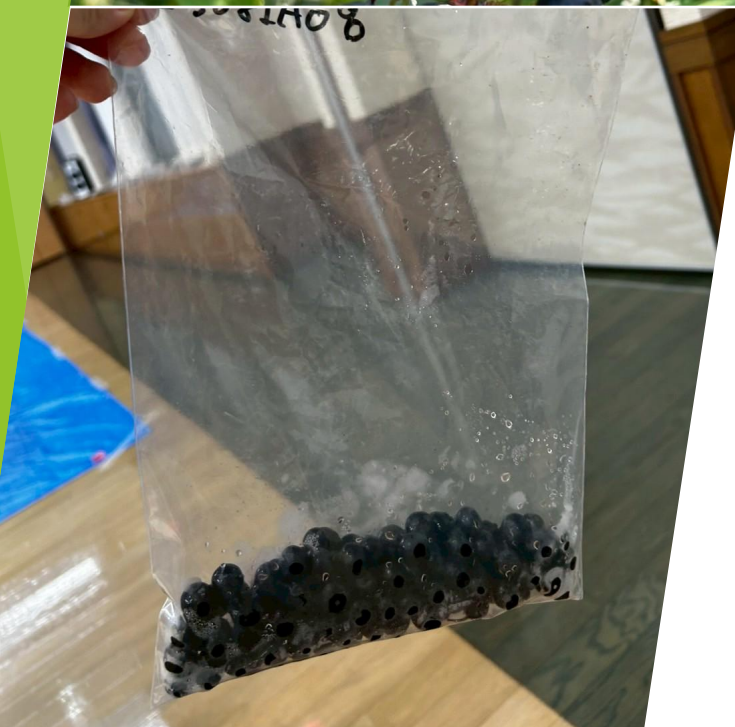
本発表について

1. 本研修で達成したいこと
- 2. 放射能濃度の測定**
3. 飯舘村が抱える問題と解決策
4. 未来の飯舘村が存続していくために



飯館村の ブルーベリー農園

- ▶ ブルーベリーの実の放射能濃度:
 $-110.6 \pm 3.8 \text{ Bq/kg}$
(食品安全基準: 100 Bq/kg 以下)
- ▶ 土壌の放射能濃度: **$1457 \pm 50 \text{ Bq/kg}$**
- ▶ 同地点の空間線量
5 cm: $0.507 \text{ } \mu\text{Sv/h}$
1 m: $0.351 \text{ } \mu\text{Sv/h}$



土壌の除染と安心安全な農業

実際にブルーベリーの放射能濃度を測定した結果、国の安全基準を満たしていることが確認された。

土壌の放射能濃度も十分に低く、ブルーベリーの栽培に大きな影響を与えていないものと考えられる。

土壌の除染が問題なく完了し、安心安全な栽培を行うことができる。

本発表について

1. 本研修で達成したいこと
2. 放射能濃度の測定
- 3. 飯舘村が抱える課題と解決策**
4. 未来の飯舘村が存続していくために

飯舘村が抱える課題とは

▶ いいたて結い農園・長正さんのお話

- ・飯舘村の住民は原発事故による放射能汚染に向き合い、農村文化を再興させようとしている
- ・孤立せずにお互いに助け合い、地域コミュニティの中心となるような農園を目指す

▶ 全国の農村部で進む**少子高齢化**や**農業の担い手不足**

▶ 飯舘村が持続可能な地域であるためには？



飯舘村の課題の解決策

▶ 避暑地・別荘地としての開発

- ・飯舘村は山間部にあり、夏は比較的涼しく過ごすことができるため、避暑地としての地域活性化が期待できる
- ・観光タクシーやツアーの導入により、豊かな自然や魅力的な観光スポットを楽しんでもらえる機会を作れるのではないだろうか

▶ 交流人口の増加・交通網の充実 → 住民の増加も期待



本発表について

1. 本研修における目的・達成したいこと
2. 放射能濃度の測定
3. 飯舘村が抱える問題と解決策
4. 未来の飯舘村が存続していくために



新たな村の形に向けて

- ▶ ほかの地域ではなく「飯舘村」が選ばれる理由を創る
- ▶ 農業体験に放射線に関する学習を取り入れる
普通の農業体験では差別化が難しい
 - 原発事故の被害を受けた経験を伝えていく必要性
 - 農業と放射線の双方の分野に知見が広がり、飯舘村に対するより深い理解を得られるのではないか

住民主体の取組

- ▶ 住民が望む街づくり
 - ・ 少子高齢化が進む村が明るく住みやすい場所であるためには、住民自身の声を丁寧に聞く必要がある
 - ・ 住民と行政のコミュニケーション
 - ・ 意思決定の場に住民が関わる
→主体的で積極的な活動につながる
- ▶ 積極的な活動による地域の活性化
 - ・ コミュニティ内でのイベントを開催し、村全体の結びつきを強化する
 - ・ 特産品である農産物や畜産物を対外的にアピールする

ご清聴ありがとうございました